



すぎなみ

教育報

第187号
 平成19年12月10日
 発行 杉並区教育委員会
 杉並区阿佐谷南1-15-1
 ☎3312-2111 FAX 5307-0692
 教育委員会ホームページ
<http://www.kyouiku.city.suginami.tokyo.jp/>
 区公式ホームページ
<http://www.city.suginami.tokyo.jp/>

地域の底力を学校に

地域と学校を結ぶ架け橋
「学校支援本部」

地域の人々が持つ、知識や経験。学校が必要としているのはそんな地域の力です。今も地域のボランティアや保護者の皆さんが学習支援や安全防犯活動、図書室の環境整備などの場面で活躍していますが、「学校支援本部」では皆さんのそれぞれの活動に加え、今までは先生がその役割を担ってきた、学校-地域の連絡・調整も地域の皆さんが行うなど、活動を総合的に取りまとめ、より円滑に、かつ機動的に学校を支援します。地域と学校を結ぶ架け橋となる、学校支援本部の活動を紹介します。(学校支援本部の名称は各学校によって異なります。)

杉七サポートチーム —わく算教材作成チーム—

「算数大好きっ子が増えていこうよ。」そんな思いを含め、毎週木曜日に活動をしている「わく算教材作成チーム」。子どもたちの学ぼうとする力を向上させるため、様々な教材作りにチャレンジしています。



「私たちも楽しみながらやっています！」と教材作成チームの作業風景。

カラフルなパズルに、不思議な立体模型、学校が発案し、このチームが作る教材はどれも皆あっと目を引くものばかり。その教材が置いてある「わくわく算数ルーム」は、休み時間も自由に使い、教科書では味わえない体験ができることから子どもたちの人気の場所のひとつとなっています。「算数が好き!」という児童が8割を超えているのも、この教材や教室を活用している成果といえるでしょう。特色である「算数レストラン」と称した、学校生活のあらゆる機会を通して算数の学習を伸ばすための取り組みを、この地域の力が盛り上げています。

設立二年目を迎え「杉七サポートチーム」と名称を改めた学校支援本部は、「わく算教材作成チーム」を含む、5つのプロジェクトチームと、それを支える本部で、学校と協力しながら今後も自主的に活動をしていきます。

沓掛小学校地域支援委員会 —学校図書館部—

「もうすぐクリスマスなんだけど・・・」「あ、じゃ展示やりましょうか」本のメンテナンスをしながらも途切れない「図書館ボランティア」の皆さんの会話が、学校図書館を充実させるアイデアの源泉です。作業は本を整理し、汚れた本をきれいにすることにとどまりません。手作りのとしよじつMAP、本棚の周りの飾りつけ、図書分類の再構築、先生の「お勧め本」にコメントのメモをつけたりと、皆さんがそれぞれの得意分野で「出来る範囲で」楽しく学校に参加しています。

一方木曜日の中休みは「お話会 どんぐり」の番。「お母さんの話し方」を心がけながら、自ら選んだ本を丹念に読み聞かせます。参加は子どもたちの自由。でも毎回顔を出す熱心なファンもいるようです。



今、ここでアイデアが生まれようとしています。

企画調整部と、学校図書館部をはじめ4つの支援活動部からなる沓掛小地域支援委員会。アイデアをすぐに行うことができる環境は、学校との揺るぎない信頼関係の証です。

学校支援本部

永福小学校学校支援本部 ～お月見会

「月の勉強をしている子どもたちに観月会をやってあげたいね」学校からの提案がきっかけでした。依頼を受けた学校支援本部は、どうせやるならと、読み聞かせ、紙芝居、科学館の指導員を招いての月の話、望遠鏡による観月と、盛りだくさんの内容での大イベントを企画しました。各支援隊の今までの活動の成果披露の場でもあります。オープニングの音大生による「けやきの森コンサート」は学校の企画です。当日、集まったのは保護者の方も含め360名。会場の屋上芝生は2/3が埋まってしまうほどでした。しかし、残念なのは天気。月が見えません・・・

永福小の学校支援本部ができたのは平成18年12月。

それぞれが活動をおこなってききましたが、今回は、全体で取り組む初めてのイベントです。緑のベストを着た支援隊の人たちがスムーズにイベントを進めるために奔走しています。

「あ、見えた!」皆の願いが通じたのか、見上げると、雲間からまん丸の月が。全てが大成功。「やっぱり楽しいのが一番だよ」にっこりと微笑んで語ってくれた校長の言葉に、学校と

支援本部の結束の固さがうかがえます。



見えた!



支援本部長の鈴木玲子さんに お話を伺いました。



屋上から、こんなにも素晴らしい月や夜景が見られるなんて!と子どもたちの学校自慢がまた一つ増えたことでしょう。これからは情操教育の一貫として、四季折々の日本の伝統行事を子どもたちに伝えていきたいと思っています。

永福小の各支援隊は「出来る事を、出来る人が、出来るときにやる」をモットーに、それぞれの得意分野で自主的に活動しています。支援本部(事務局)の役割は、支援隊が動きやすいようにサポートし、学校の考え・求めていることを学校とじっくり話し合いながら十分理解すること。とはいえ、和気あいあいとした雰囲気なので、皆自然体で活動できています。無理をしないというのも永続的に活動するためには必要ではないでしょうか。

現在でも永福小はたくさんの地域の方に支えられています。この恵まれた環境を保つために私たちが出来ることは何か。現在も模索中ですが、やはり中心は「子ども」です。次の世代を担う子どもたちが「この学校でよかった、この地域で育ってよかった」と思ってくれたら、こんなにうれしいことはありません。

これからの学校ってどうなるの?

学校は、こうした学校支援本部の活動を通して、地域との信頼関係を深めていきます。その上で、学校支援本部のような学校を支援する活動だけにとどまらず、地域の皆さんの知恵や意見を反映する仕組み=地域運営学校(コミュニティスクール)を導入することで学校の教育力を高めていきます。

現在、地域運営学校となっている学校が杉並区には6校あります(小学校2校、中学校4校)。これらの学校では、地域や保護者の皆さんから構成される「学校運営協議会」が開かれており、教育課程の編成や学校運営に地域や保護者の皆さんの意見が反映されるようにしています。

今後、学校支援本部や地域運営学校など、学校支援と参画の仕組みを全校に広げることによって、地域に開かれ、地域に支えられる学校づくりをさらに進めていきます。

※3面「教育委員からの発信」もぜひご覧下さい。

元気な子へ チャレンジ! 南伊豆健康学園 園児募集 伊豆半島の南端にあり、きれいな空気、温暖な気候、恵まれた自然の中で、お子さんの健康の回復と体力増進を図る全寮制の学園です。区内の小学校と同じ授業を行いながら、自然環境を生かした指導や、児童ひとりひとりに適した健康管理を行います。入園期間 平成20年4月~平成21年3月 費用 月額28,000円(食費、雑費) 対象 杉並区立各小学校に在学する上記入園期間中3~6年生(現在2~5年生)の方で、肥満や喘息・虚弱・偏食のあるお子さん 申込み 平成20年2月1日(金)までに各学校に申し込んでください。お問合せ 学務課就学奨励係

地域の教育力をつなぐためにー三谷小学校



学校支援・地域共生本部の事務局長、石田さん。地域を良く知り、「三谷の母」と呼ばれます。

この平木教授の言葉を心に留めながら、三谷は「学校支援・地域共生本部」を設立し、地域と学校の、つまりは地域の人々と学校の児童や先生とのより良い「かわり」を築いていきます。この学校で学び育った人が、またこの学校に戻り、地域のひととして支援する。そんな学校・地域を三谷は目指します。



平木教授

知識を広げ、知恵を深める。いのちをみつめ、心をはぐくむ。力を養い、体をきたえる。創立当初から地域とのつながりを大切にしてきた三谷小学校では、「あいき」という言葉に、冒頭のような意味も込められています。区でいち早く「地域運営学校」(OS)となった同校は、これまでも「部会活動」として、地域の方々の参加・協力を得ながら、学校をより魅力あるものへと変えてきました。この「地域の方々の参加・協力」をより広く、深く充実させるための「学校支援・地域共生本部」の設立総会が十一月十日に開催されました。

小中一貫教育の試みー杉並第四小学校 ～高円寺中学校

算数の教室では、まずは杉四小の先生が計算のきまりなどを黒板を使って説明し、問題を出します。答えが書けたら、中学の先生と一緒に話し、丁寧に解き方を教えるなど、連携プレーで「楽しい算数」に導いていきます。

このような形で、五、六年生は環境や授業のやり方も含めて「中学校」に慣れていくのですが、杉四小・高円寺中の先生たちも、この機会を利用して小学校・中学校の情報交換を行い、子どもたちが戸惑わないような環境を整えるにはどうしたらよいかを話し合っています。今後は、さらに「一貫教育の充実を目指す」、中学校で学習する教科や時間を拡大する予定です。



十一月六日火曜日、高円寺中に通い始めてから三週目。最初は中学校に足を踏み入れるのにも緊張していましたが、今日は中学校の英語の先生にも大分慣れはじめています。先生のほうも教壇から降り、子どもたちの中に入って一人ひとりに話しかけるようなやり方で教えていきます。杉四小の先生は、子供たちが困ったような顔をしたら、すぐに傍に行き話を聞いてあげると指導しています。

算数から数学になり、新たに教科として英語が加わる。担任の先生がほとんどの教科を教える授業から、教科ごとに違う先生が教える授業に。学習内容もより難しく、複雑になります。小中学校を卒業し、中学生になる。子どもたちの誰もが経験するこの環境の劇的な変化は、時には戸惑いとなり、学力や登校への意欲に影響することもあります。これが「中一ギャップ」と呼ばれるものです。この「中一ギャップ」を回避するため、小・中学校の先生のきめ細やかな指導によって、子どもたち一人ひとりの確かな学力を身に付けることを目指しています。「小中一貫教育」の試みが、杉並第四小学校・高円寺中でも行われています。毎週火曜日、杉四小から五、六年生が目と鼻の先にある高円寺中に向かい、中学校の教室で、算数と英語活動の授業を受けます。また、水曜日には、杉四小に高円寺中の先生が向かい、五、六年生の算数を小・中の先生で指導しています。

特色ある教育活動の展開ー高井戸東小学校



※地域の人が自らの知識・経験・技能を活かし、授業などを支えます。地域と学校を結びつける立役者ともなります。



高東小は、平成十九年度のテーマを「元気がいっぱい、高東の子」として、体育授業の工夫・改善・充実を進めるほか、食育や、健康教育の推進などにも取り組む、子どもたちの体力向上と健康な体づくりを目指しています。この「特色ある学校づくり」を学校が、学校発の取り組みとして、学校全体で推進していくことにより、その成果としての子どもたちの姿は、文字通り学校の「カラー」となっています。

今日の学校サポーター(※)は大学の陸上部学生。体育の授業でハードルの技術を五年生に教えに来ました。高東小は今年度、「走る」ことを全ての運動の基本であると考え、学校サポーターの協力を得ながら「走る」に取り組んできました。

ハードルはその応用編とも言うべきもの。「走る」に加え、さらに複雑な動きが加わります。そのため、最初はやはり子どもたちもハードルの前で立ち止まったり、避けて走っていったり...。

みんなの走り方を見終えた後、サポーターが、ハードルを跳び越えるときの姿勢、足の振り抜き方など、簡潔であるけれど的確なアドバイスをひとつひとつに実践に手本を見せます。子どもたちはサポーターを「ハードルのプロフェッショナル」と認め、その話や動きを信頼し、真似しようと試みます。



♪知ってましたか!?～東田小学校「東田フェスタ」と「成田東しくさ」～
* 梶尾孝徳君、岡田朋哲君、西本拓末君は東田小学校の5年生。11月17日東田フェスタでのワークショップ「成田東しくさを発信しよう」を、成田東だけでなく区内全域に発信したいと考え、区役所へPRにやってきました。東田フェスタが年に一回のお祭りです。発表(2、4、6年生)やワークショップ(1、3、5年生)があること。自分たちは「江戸しくさ」の東田小版、「成田東しくさ」をワークショップで提案し、広めていくつもりであることなどを彼らは真剣な顔つきで教えてくれました。* 「成田東しくさ」では4つのグループに分かれ、オリジナルMYバッグの製作と近所のサミットでのレンタル実証実験、おにぎり一個分の生ごみ減らし、あいきつ運動の推進、「一週間に1回でも」のゴミ拾いなど、大人も耳が痛い話を、自分たちで地道に行った調査結果を交えて提言していきます。右は区役所へやって来た3人が書いてくれた活動リポートです。ぜひお読み下さい!

教育に支援を惜しまない地域社会の実現に杉並区は取り組んでいます。

①規定形式は 「条例」、「憲章」、「宣言」の各特長や長所・短所などについて比較検討した結果、「行政機関などに対し、拘束力を持たせることができる」、「行政の施策や取組みについて、区民が評価できる規定を取り組むことができる」など「条例」の長所を重視し、「形式については条例にすべき」としています。

②条例の構成は 前文を付してそこに区が目指す「教育立区」を支える基本となる考えを表すことが適当であると提言されています。

③条例の前文の内容は 前文には「人が育ち人が生きる杉並区」を標榜する区としての「人づくり」の基本的考えを記述することが適当であるとし、「大切にすること」として次の3つが提言されています。 ①人間として生まれてきたこと ②人間性を発揮すること ③社会性を発揮すること

④条例の本文は 条例の制定目的や大切にしたい考え方を明らかにし、教育立区の実現に向けた基本的な考え方を表すべきとしています。続いて家庭・地域・行政それぞれの役割と責務、人づくりに関する行政の基本となる、中・長期的な目標と行動計画づくり、事後評価や検証の仕組みなどを盛り込んでいくことがこの条例にふさわしいと提言されています。

教育基本条例等に関する提言が提出されました。すぎなみ教育報第182号でもお知らせしている「杉並区教育基本条例等に関する懇談会」(会長小松都夫国立教育政策研究所教育政策・評価研究部長ほか委員十二名)では、「教育立区」の実現を目指す杉並の教育基本条例等に関し「何を重点的に盛り込むか」、「どのような規定の仕方にするのか」といった課題に対して議論を重ねてきました。九月十九日、その議論の結果が会長から教育長へ「提言」として提出されました。その概要は次のとおりです。 区では、今後この提言の趣旨を踏まえ、教育基本条例等の制定に向け検討を進めていきます。

「すぎなみ大人塾連」がまちをおもしろくする!

自分を取り戻し、社会とのつながりを見つめる大人の放課後「すぎなみ大人塾」。ワークショップ形式の学習を通じて自分の可能性を伸ばすとともに、参加者同士のネットワークを築いています。塾の修了後は、相互の資質と資源を持ち寄り新しい地域づくりに向けた行動や学びの場づくりをすすめています。修了生の多様な創意工夫にあふれた活動を、ゆるやかにつないでいるのが「すぎなみ大人塾連」です。 ◆郷土博物館分館を活動拠点のひとつとして ◆大人の塾連が、現在力を合わせて取り組んでいる活動の一つが、博物館と区民の協働企画展実施です。今年四月、天沼の旧池畔寺跡地、天沼井天地公園内に郷土博物館分館が誕生したことをきっかけにした新しい試みです。 ◆郷土博物館分館は、「区民とともにつくる未完の博物館」等を基本理念に、区民の参画を積極的に進め区民とともに成長していく施設として期待されていますが、その理念を具体化するため「すぎなみ大人塾連」が先導的に関わっているのが「すぎなみ大人塾連」です。 ◆これまで開催した展示は「天沼井天地 界隈の昭和二十〜三十年代の写真展」「すぎなみ昔話展」「カフトムシの里展」です。いずれの展示・関連イベント開催に関しても、地域の団体や企業、近隣学校や土曜日学校プログラムと連携するなど、開かれた活動を展開しています。「カフトムシの里展」(写真)では、近隣児童館で行なわれているパネルや区民へのカフトムシアンケート集計結果パネルのほか、生育に欠かせない堆肥づくりを進める環境団体の協力を得た落葉堆肥化道具の展示、映像機器を企業から無償で借りカフトムシの貴重な映像を流すなどしています。展示・イベントにかかると経費の一部は、「すぎなみ大人塾連」が企業から受けた助成金を活用しています。 ◆来年一月からは「仮帳 杉並と喫茶文化展」と題して、杉並の地域文化の一端を育んできた拠点とその背景に迫ります。現在「すぎなみ大人塾」屋敷コースは、「コミュニティカフェ」をテーマに開催していますので、その成果も展示に反映される予定です。 ◆未定 であることが、多くの人の活力を呼び込み、地元への愛着を育む場としての分館の輝きにつながっています。 ◆これからは「ソーシャルデザイナー」の時代! 「すぎなみ大人塾連」の活動の基本になっているのは、自分や社会にある資源をうまくつなぎ合わせる、新しい価値を付加し、「1+1」を「3」にも「5」にも膨らませながらもワクワクするまちをつくりだしていくというものです。すぎなみ大人塾では、そうした役割を担う人を「ソーシャルデザイナー」と呼んで、「協働」や「自治」、「当事者」がキーワードになるこれからの地域や社会で欠かせない存在だと考えています。 ◆あなたも「ソーシャルデザイナー」が気になったら、ぜひ来年度は「すぎなみ大人塾」に参加して学びませんか? ◆お問合せ：社会教育センター TEL3317-6621

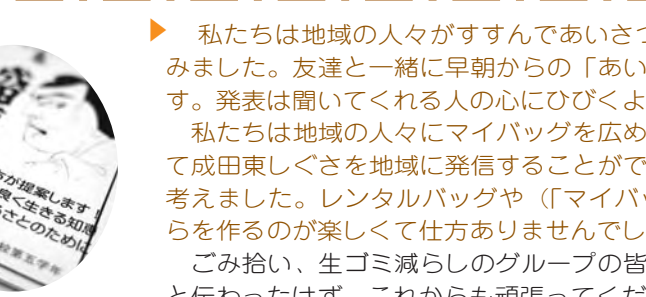


今年度のテーマは「これからの学校」。5人の教育委員が意見を発信します。 ◆地域に開かれ、支えられる学校へ」 ◆教育委員 安本 ゆみ

「意見をお待ちしています」 「教育委員からの発信」をお読みください。 ◆意見は郵送、または公式ホームページ(「生活サポート」)「子供教育」にて教育委員からの発信)にお寄せください。

杉並区では、現在いろいろな学校改革の取り組みを進めています。中でも特に地域の皆さまと深い関係があるものに「学校支援本部」と「地域運営学校」があげられます。 ◆学校で話をうかがったり、図書館の環境を整えていただいたり、安全防犯のためにご協力いただいたり、さまざまな学校支援の活動をいただいております。こういった活動を核のつながりをもって、円滑かつ機動的に実施していくために、杉並区では各学校に「学校支援本部」を設置する動きが広がっています。また、この動きは、文部科学省も注目し、杉並に端を発して全国に広められようとしています。

「学校支援本部」は、地域の皆さんに学校の応援団として、さまざまな支援活動を組織的に実施していただく取組みです。地域の力が学校に注がれることで、先生たちは本来の業務である授業や子どもたちとの関わりにより専念できるようになり、学校がもつ力は格段に向上します。平成十八年度には小中五校、十九年度には小中十校がこの「学校支援本部」を立ち上げ、地域・保護者の皆さまとの連携を深めておられます。 ◆また将来的に杉並区は、平成二十二年年度までにすべての小中学校に設置する計画です。 ◆こうした学校支援本部の取組みが、より強固になると「地域運営学校」に発展します。「地域運営学校」は、「学校運営協議会」を通じて、地域の皆さんが一定の権限をもって学校の運営に当事者として参画していく仕組みです。これはなによりも地域に開かれ、そして地域に支えられる学校をめざすものです。現在全国で一九五校、杉並区では小中六校が指定されています。



私たちは地域の人々がすずんであいきつを交わし合えるようになってほしいという気持ちを込めて、調査や体験活動に取り組みました。友達と一緒に早朝からの「あいきつ習慣」で地域の人々にあいきつの大切さも呼びかけることができてうれしかったです。発表は聞いてくれる人の心にひびくように気をつけました。(あいきつグループ) 私たちは地域の人々にマイバッグを広めるためにインタビューやアンケート調査を行いました。多くの地域の人が協力してくれて成田東しくさを地域に発信することができました。また地域の人々がどのようにしたらバッグを持ってくれるのかということも考えました。レンタルバッグや「マイバッグ忘れていませんか」と書かれた)ドアノブホルダーのアイデアが出てからは、それらを作るのが楽しくて仕方ありませんでした。発表ではお客さんが納得してくれたのでうれしかったです。(マイバッググループ) ごみ拾い、生ゴミ減らしのグループの皆さん、紹介できなくてごめんなさい。でも、皆さんのメッセージはお客さんたちにきくと伝わったはず。これからも頑張ってください!



※地域の人が自らの知識・経験・技能を活かし、授業などを支えます。地域と学校を結びつける立役者ともなります。

子どもたちの健康を第一に考えて—文部科学大臣表彰受賞

東田小学校

(文部科学大臣表彰受賞 学校保健の部)



見よ!! この体のしなやかな動き!これも東田小の体力(からだりょく)。

一日のはじまり、東田小「元気タイム」。九月に完成したばかりの芝生校庭は現在養生中のため、体育館で行われました。八時二十分、体育館に続々と子どもたちが集まります。五分間の「チャレンジタイム」で長なわとびが何回跳べるか。子どもたちはお互いに今日の目標を宣言しあっているようです。

ウォーミングアップが終わると、チャレンジタイムが始まると、皆真剣な顔で回転する長なわの中に飛び込んでいきます。万が一、誰かが失敗しても、「大丈夫、大丈夫!」と声を掛け合い、お互いを励まし合いながら記録に挑戦し続けます。始業前のひととき、みんなと一緒に運動することで、一日が元気に過せます。

「運動に親しむ意欲・態度、発達段階に応じた身体能力、望ましい生活習慣」を「体力(からだりょく)」と称し、運動の日常化と、生活習慣の改善に取り組んでいる東田小。平成十七年度から始めたこの取り組みは、いまや確実に実を結びつつあり、体力テストの結果のみならず、学力や、学習意欲、食生活といったところにも効果が表れているようです。

今日、元気タイムを行った体育館の前には大きくこんな文字が張り出されています。

「東田の体力(からだりょく)きたえようからだ うんどうだいすき まいにちげんき!」

今回受賞した、子どもの「からだ」に対するトータルな活動への意欲と自信が、この文字には見てとれます。

三谷小学校 江口敏幸栄養士

(文部科学大臣表彰受賞 学校給食の部)

三谷小のホームページを開くと、毎日変わるおいしい給食の写真を。そこをクリックすると、楽しい一口メモが現れます。これを書いているのが、今回受賞された三谷小栄養士、江口さんです。江口さんは、おいしい給食を提供するために、地産の野菜を取り入れるなど新しいことに挑戦したり、子どもたちの健やかな成長のために給食の普及にも積極的に取り組み、他校でも講演を行っています。江口さん、仕事をしていた一番うれしいことってなんですか?

子どもたちが「今日の給食おいしかったよ、また作ってね!」と声をかけてくれる時が一番うれしいです。栄養士は、子どもたちの状況・季節や旬・学校行事・授業内容を考えながら献立を作ります。できた料理がやはりおいしくなくては食育は進みません。安全でおいしい給食はやはり一番大切にしたいですね。

食育のリーダーとして、子どもたちや保護者の方にお願いや、守ってほしいことはありますか?

食育は健康問題だけではなく生産から消費、文化、感謝の気持ちなど多岐にわたります。その中で基本は「食を楽しむこと」ではないかと思っています。一人で食べるより二人。家族全員ならもっと会話もはずみ食事を楽しくすることが出来ます。そこから、今日の料理おいしいね、どのように作るの? 食材はどこから来るんだろう? どの国の料理なのか? 等、疑問が出てきます。子どもも大人も忙しい毎日ですが、週に一回でも家族がそろった食事ができる状況を作ってほしいと思います。また、日本には素晴らしい行事がたくさんあります。それに伴う行事食もあります。手作りとはいませんが、日本の行事を家庭でも大切に子どもたちに伝えていたいただきたいと願います。

この、子どもたちだけでなく、家庭や地域までも考えた広い視点からの江口さんの取組みが認められました。江口さん、これからもおいしい給食をお願いします!



(この人が、江口さん。マスクと帽子では顔が分からないので、給食室から一度出ていただいて、パチリ。)

子どもたちのエコスクールづくり—杉並第六小学校



かいぼり班。「どじょうがいた!」と大喜びの子どもたち

杉並第六小学校では、今年度から「児童参加型のビオトープづくり」を行っています。

「ビオトープって何!?!」まず、庭師の方にこんな話を聞くところから授業は始まりました。次に行ったのは、「校内にいる生き物さがしの探検」です。今、校内にいる生き物を調査し、「自分たちが新しく作るビオトープに呼びたい生き物は何だろう?」と話し合い、「その生き物たちが、どんな環境だったら集まってくるかな?」と本を使って調べ発表をしました。基本となる計画が出来上がったところで、いよいよデザイン作りに挑戦です。「こんなビオトープがほしい!」とみんなでアイデアを出し合い、そのデザインをもとに10月から工事が始まりました。

工事当日、かいぼり班と土工班に分かれた4年生約45人が協働事業のコーディネーターやプロの工事業者にそれぞれ指導を受けながら一緒に作業をしました。

数日後の授業では、3年生も参加し、泥んこになりながらも「カエルやトンボ来るかな」と期待をふくらませる子どもたちの顔は、ニッコリ笑顔。杉六小学校のビオトープは、雨水を貯水槽に溜めて、その水を流し、太陽光発電を利用したモーターで循環させるという省エネルギーを考えた仕組みになっています。保護者や地域の方の協力もあり、みんなで作り上げた「手作りのビオトープ」が、今出来上がろうとしています。12月中旬の完成お披露目会まであと少し、そこに集まってくる動植物の観察が今からとっても楽しみです。

区のビオトープ設置校は、これで15校目となります。今後も校庭・屋上・壁面の緑化の整備等を行い、子どもたちも地域の人たちも、自然とふれあい、環境について学び、考えるよりどころとなる学校施設(エコスクール)づくりを推進していきます。



土工班。工事業者さんの指導を熱心に受ける子どもたち。

12月16日 今川図書館が開館します

来たる12月16日(日)、区内で13館目、西荻地域では2館目の今川図書館が開館いたします。(今川四丁目12番10号)

今川図書館は閑静な住宅街の一角、緑あふれる落ち着いた環境の中にあり、区内の図書館としては初めてゆうゆう館(高齢者施設)と併設しています。今川図書館ならではの特色を活かし、生涯にわたる学習と自立を支える情報拠点として、区民の方々に活用されるよう運営していくとともに、民間企業に運営を委託し、個性溢れる図書館を目指していきます。皆様のご利用をお待ちしております。

開館に合わせ、洋書絵本などの特別展示を行います。また、12月24日(月)〔振替休日〕午後2時から、幼児・児童向けの「クリスマス特別お話を」を開催します。ご家族連れで出かけてみませんか?

交通案内

JR中央線 荻窪駅北口から「武蔵関駅」行き「井草八幡宮」下車徒歩5分
JR中央線 西荻窪駅北口から「井荻駅」行き「今川四丁目」下車徒歩7分

【お問合せ】中央図書館(☎3391-5754)

開館後は今川図書館(☎3394-0431)へ



教育委員会の動き

19年9月~11月

【教育委員会開催状況】

- ・定例会 5回
- ・臨時会 2回
- ・議案 13件
- ・報告事項 11件

【主な案件】

- は審議、○は報告事項
- 「教育基本条例等に関する提言」について
- 学校希望制度申請状況について
- 指定管理施設の年末年始の開場及び年始特別営業について
- 「小中学校適正配置のための再編構想」に対する区民等の意見と区の方針について

〇へん知る

ガーデニング・緑と花のまちづくり開催中 土いじりを通して「家族のきずな・地域のきずな」を深めあいながら、防災のまちづくりや地域の緑化の視点なども盛り込み、みんなが笑顔で生活できるまちづくりに取り組んでいくための講座です。ゆうゆう梅里堀ノ内館・ゆうゆう桃井館を主な拠点として、【文部科学省「学びあい支えあい」地域活性化推進事業】の一環として開催中です。世代間の交流や地域でのつながりづくりに関心のある方、ぜひご連絡ください。
お問合せ：車座委員会地域活性化推進事業チーム(事務局は社会教育センター☎3317-6621)

